

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 4 月 15 日 (2021.4.15)

【公開番号】特開 2019-166025 (P2019-166025A)
 【公開日】令和 1 年 10 月 3 日 (2019.10.3)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-040
 【出願番号】特願 2018-56051 (P2018-56051)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 2 日 (2021.3.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

入球口への遊技球の入球に基づいて当たりと判定されると、遊技者に有利な特別遊技状態に制御する遊技機において、

移動可能な可動体と、

前記可動体に駆動力を付与可能な駆動手段と、

演出を制御可能な演出制御手段と、を備え、

前記駆動手段は、コイルに対して双方向に電流を流すバイポーラ型のステッピングモータであり、

前記演出制御手段は、

前記可動体の移動を所定の始動位置から開始するときには、前記駆動手段の速度を 200pps 以下にすると共に、前記駆動手段の励磁方法を励磁される励磁相が 1 つ又は 2 つに交互に切替わる 1 - 2 相励磁にすることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の遊技機において、

前記演出制御手段は、

前記可動体が前記始動位置から移動した後の移動中に、前記駆動手段の励磁方法を前記 1 - 2 相励磁から、励磁される励磁相が 2 つである 2 相励磁に切替えることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

ところで、特開 2010 - 207433 号公報に記載の遊技機では、駆動手段を駆動させる際の励磁方法を、励磁される励磁相の数が 2 つである 2 相励磁（多相励磁）にしている。2 相励磁は、駆動手段で高出力（高トルク）を発生させることができるという点で有利である。しかしながら、駆動手段の励磁方法を例えば 2 相励磁のような高相励磁にして

、可動体の移動を所定の始動位置から開始する場合、以下の問題点がある。即ち、駆動手段が高出力を発生させる状態で可動体の移動を急に開始するため、可動体に作用する衝撃（振動）が大きくなり易い。従って、可動体が移動し始めるときの挙動が安定しないおそれがあった。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものである。すなわちその課題とするところは、可動体が移動し始めるときの挙動を安定させることが可能な遊技機を提供することにある。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明の遊技機は、
入球口への遊技球の入球に基づいて当たりと判定されると、遊技者に有利な特別遊技状態に制御する遊技機において、
移動可能な可動体と、
前記可動体に駆動力を付与可能な駆動手段と、
演出を制御可能な演出制御手段と、を備え、
前記駆動手段は、コイルに対して双方向に電流を流すバイポーラ型のステッピングモータであり、

前記演出制御手段は、

前記可動体の移動を所定の始動位置から開始するときには、前記駆動手段の速度を 200pps 以下にすると共に、前記駆動手段の励磁方法を励磁される励磁相が 1 つ又は 2 つに交互に切替わる 1 - 2 相励磁にすることを特徴とする遊技機である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の遊技機によれば、可動体が移動し始めるときの挙動を安定させることが可能である。